

2. 文学部

(1) 文学部の教育目的と特徴	2-2
(2) 「教育の水準」の分析	2-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	2-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	2-13
【参考】データ分析集 指標一覧	2-14

(1) 文学部の教育目的と特徴

1. 文学部は哲学・歴史学・文学・人間科学の視点から人間の在り方の全体を捉える知の営みに触れることを通して、適切な思考力と表現力、総合的なものの見方を身につけた人材を組織的に養成する。

以上の教育目的をディプロマ・ポリシー（DP）の根幹にすえ、哲学、歴史学、文学、人間科学の4コースに21の多彩な専門分野を設けて人文学を総合的にカバーし、個別分野ごとに高度な専門性を追究しつつ、全体を見渡す視野を確保した授業科目構成（自由選択科目および「人文学基礎」「人文学」）をとっている。学生は最終年次に、自ら設定したテーマにもとづいて主体的に研究にとりくみ、その成果を卒業論文としてまとめて、学士課程の集大成とする。

また教育の国際性を強化すべく、2018年度に国際コース（専攻横断型英語重視プログラム）を新設し、英語をはじめとする外国語の教育と、外国語を授業・研究や実際の国際交流のなかで駆使することに重きをおいたカリキュラムをおこなっている。

さらに、同じく2018年度より教育学部、経済学部、法学部と連携して「文系4学部副専攻プログラム」を立ち上げ、人文学の内部にとどまらず、社会科学諸分野についても第二の専攻として履修できる仕組みを整え、学部教育の学際化をいっそう促進しているところである。

2. 本学部の教員構成の特徴は、専門科目等の充実を図るために実務経験を有する教員や、人文学の総合性や、そこで扱われる世界の諸文化の多様性に鑑みて多様な専門領域の教員を配置していることである。なかでも歴史学コースに朝鮮史学とイスラム文明学の専門課程を設けていることは、他大学にみられない特色の一つである。

国際性の面では、上記の専門領域の多様性に加え、外国人教員を多数配置していることもあげることができる。外国文学・外国語の専門分野に当該言語のネイティブ・スピーカーの教員を配していることに加え、複数の外国人教員が英語により日本史、日本思想、日本美術など日本学の授業を実施していることは、日本学の国際化とこれにもとづく教育を推進する新しい体制として大きな特色である。

以上のような教員編成のもとで、入学者として、人類の文化・歴史・社会の多様性に強い関心をもつ学生や、中国・韓国を中心として多くの留学生を受け入れている。

3. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の教育に関する基本的な目標「入試改革により高い学習意欲を持つ優秀な学生を受け入れ、自ら学ぶ姿勢や態度、分野横断的な俯瞰力、課題発見・解決能力を育む学部・大学院（学府）教育を展開し、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材（アクティブ・ラーナー、骨太のリーダー）を育成する。」を踏まえている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針
(別添資料 7302-i1-1_文学部3 ポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針
((再掲) 別添資料 7302-i1-1_文学部3 ポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料 (別添資料 7302-i3-1~4)
(別添資料 7302-i3-1_カリキュラムマップ、別紙1~5については
7302-i3-2 資料と対応)
(別添資料 7302-i3-2_ナンバリングコード)
(別添資料 7302-i3-3_文学部規則)
(別添資料 7302-i3-4_文学部単位履修細則)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
(別添資料 7302-i3-5_文学部自己点検・評価委員会内規)
(別添資料 7302-i3-6_外部評価についてのコメント)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部全体の教育目的、コース別の教育目的、専門分野別の教育目的に即して、学部コア科目 (必修、選択必修)、コース共通科目 (必修、選択必修)、専門科

九州大学文学部 教育活動の状況

目（必修、選択必修）、自由選択科目に科目群を類別・階層化し、初年次の基礎科目から最終年次の卒業論文にいたるまで、年次進行で段階的に学修を展開する体制をとっている。

また各専門分野における学問の特性に応じて、履修すべき専門科目（演習、講義、講読、実習など）や「古典語および外国語科目」の科目名と単位数の内訳を専門分野ごとに設定している。

これらについては 2019 年度にカリキュラムマップを新たに整備し、学生がカリキュラム／教育プログラムの体系をより明瞭に理解できるようにした。

国際化を促進する取り組みとして、2018 年度より国際コース（専攻横断型英語重視プログラム）を新設し、英語を中心とする外国語教育、外国語を用いた専門教育・研究（特に日本学を英語により学修する科目を特色とする）、学術活動を国際的に実践（留学の授業単位化）するカリキュラムを構築した。[3.1]

（別添資料 7302-i3-7_学生便覧）

（別添資料 7302-i3-8_文学部人文科学府パンフレット 2019）

（（再掲）別添資料 7302-i3-1_カリキュラムマップ）

- 2016 年度より、九州大学文学部・朝日新聞提携科目として「ジャーナリズム論 I・II」を開講している。これは、関係経費を朝日新聞社側が負担し、同社の現役ジャーナリストを講師としてジャーナリズムの諸問題を多角的な観点から教育するものである。

人文・社会科学の幅広い素養を備えた人材を育成すべく、2018 年度より教育学部・経済学部・法学部と連携して「文系 4 学部副専攻プログラム」をスタートさせた。これにより文学部の学生は、他の専門分野、あるいは他学部の学問分野を副専攻として学修できることになった。[3.2]

（別添資料 7302-i3-9_副専攻プログラムパンフレット）

- 総合大学としての多様性を背景に、特定の学部を指定せず学際的な学びを展開する総合科目を開いている。[3.3]

（別添資料 7302-i3-10_基幹教育履修要項）

（別添資料 7302-i3-11_基幹教育科目授業時間割）

- 2019 年度から JICA との提携により「日本学」を開講した。留学生を主な対象として、日本理解を深めることを目的として、英語で教育する授業である。[3.3]

（別添資料 7302-i3-12_JICA 日本学の資料_1（開講概要））

（別添資料 7302-i3-13_JICA 日本学の資料_2（シラバス））

- 専門教育で培った知を分野横断的に広げる高年次基幹教育科目を開いている。

（（再掲）別添資料 7302-i3-10_基幹教育履修要項）

文系ディシプリン科目を中心とする全学教育（基幹教育）に、文学部担当教員のすべてが関係しており、専門研究の教養教育への還元、専門教育の入門としての教養教育を実践している。

初年次における教養科目（基幹教育科目および文学部の人文学基礎科目）の内訳・単位数を専攻決定の必要条件として指定することで、教養教育の体系性を確保している。またそれらのGPAを2年次以降における専攻決定の際の順位要件とすることで、学修意欲の向上をはかっている。[3.4]

- 中学・高等学校教諭（中学：社会、国語、英語、高等学校：公民、地理歴史、国語、英語、独語、仏語、中国語）、学芸員、司書、公認心理師、認定心理士、社会調査士、宗教文化士など、職業資格の取得に必要な科目を多数開講している。
[3.0]

（別添資料 7302-i3-14_資格取得に必要な科目の一覧（学芸員））

（別添資料 7302-i3-15_資格取得に必要な科目の一覧（教職課程））

（別添資料 7302-i3-16_資格取得に必要な科目の一覧（公認心理師））

（別添資料 7302-i3-17_資格取得に必要な科目の一覧（司書））

（別添資料 7302-i3-18_資格取得に必要な科目の一覧（社会調査士））

（別添資料 7302-i3-19_資格取得に必要な科目の一覧（宗教文化士））

（別添資料 7302-i3-20_資格取得に必要な科目の一覧（認定心理士））

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
（別添資料 7302-i4-1_文学部・人文科学府授業日程）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 7302-i4-2_文学部シラバス）
（別添資料 7302-i4-3_基幹教育科目シラバス）
（（再掲）別添資料 7302-i3-7_学生便覧）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料 7302-i4-4_協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(2016～2018年度)）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
（別添資料 7302-i4-5_文学部 大学等におけるインターンシップに関する調査）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行う PBL 科目である課題協学科目を全学必修科目として開いている。[4.1]
((再掲) 別添資料 7302-i3-10_基幹教育履修要項)
(別添資料 7302-i4-6_課題協学科目シラバス)
- また全文学部生の選択必修である「古典語および外国語科目」にも、第2外国語相当のメジャーな言語に加え、マイナー言語、古典語の科目を設置し、世界の言語文化の多様性に可能な限り対応するようにしている。専門科目についても、現代日本語以外の言語を扱う科目を多数設定している。[4.1]
- 本学部では考古学、地理学、比較宗教学、社会学など分野の特性として教室外授業を必須とする専門分野のほか、美学・美術史、歴史学の各専門分野、中国文学や言語学などでも個別科目の内容に応じて教室外の学修プログラムを実践している。特に2016年に文学部学生が亡くなった屋久島事故の反省を踏まえ、教室外の活動にあたっては、事前の安全確認、届出制度を徹底している。[4.1]
(別添資料 7302-i4-7_教室外学修プログラム)
- 本学部では、考古学、地理学、比較宗教学、社会学、美学・美術史など分野の特性上、および職業資格認定にかかわる授業内容の性格上、実践を必須とする科目があり、現場体験を通じて展開する学修プログラムを設けている。
((再掲) 別添資料 7302-i4-7_教室外学修プログラム)
2016年度より開講されている九州大学文学部・朝日新聞提携科目「ジャーナリズム論 I・II」に関連して、朝日新聞社における本学部生のインターンシップ枠を得ている。[4.2]
- 授業・学修指導におけるeラーニングシステムの有効活用をめざし、本学で運用されているMoodleを活用した授業方法の自主開発に取り組んでいる。2019～21年度には本学の「教育の質向上支援プログラム(NEEP)」において、「「多方向型」授業の実践のためのMoodle活用手法の開発」の取り組みが採択されている。これは、本学部の授業の特性である少人数クラスでの「多方向」型の授業に合わせたMoodle活用法の開発をめざすものである。[4.3]
(別添資料 7302-i4-8_教育の質向上支援プログラム(NEEP))
(別添資料 7302-i4-9_2019年度NEEP取組計画書)
- 本学部の目的にして最大の強みは、人文科学の「総合性」にあり、哲学・文学・歴史学・人間科学4コースに21の専門分野を置いている。専門分野内でも領域

九州大学文学部 教育活動の状況

の多様性にも配慮した教員配置をおこない、新規人事の分野選定・順序においても、学部全体として専門分野間・専門分野内のバランスに配慮しており、なるべく1つの専門分野担当の教員が単数にならないように努めている。その結果、各専門分野において所属学生を主な対象とする少人数授業を多数開講し、双方向・多方向的な教育を通して高度な専門性の充実をはかることを可能にする能力の教員を擁している。各教員がオフィスアワーを設定して体系的に学生に対応する一方、専門分野ごとに少人数性を活かして弾力的に個別指導をおこなう点も特色である。

人文科学の「総合性」を真の意味で達成するために、本学部の専任教員の専門分野以外の分野の一流研究者を学内外より非常勤講師として委嘱している。

(別添資料 7302-i4-10_非常勤講師リスト (2019 年度))

教育の国際化を促進する取り組みとして、英語・英文学、独文学、仏文学、中国文学など外国語・外国文学に関する専門分野にはネイティブ・スピーカーの外国人教員を配置している。さらに専任の5名の外国人教員が日本史、日本思想、日本美術をはじめとする日本学の授業を英語によりおこなう点もユニークな取り組みである。特に国際コース（専攻横断型英語重視プログラム）ではこれを選択必修科目に指定している。

2018 年度に新規にスタートした国際コース（専攻横断型英語重視プログラム）については、外国人助教を配置して、学生サポートの充実をはかっている。[4.4]

- 専門分野ごとに卒論構想発表会・相談会、ないし個別相談をおこない、段階ごとに卒業論文の進捗状況をチェックしている。提出後には、複数教員による審査、口頭試問などを通じて到達度を専門分野全体で確認する体制をとっている。また、提出に先立つ題目届と、最終的な論文提出とを、教授会において確認・承認し、学部全体として管理する体制をとっている。[4.5]

(別添資料 7302-i4-11_卒論指導体制)

- 人文科学府の歴史学拠点コースが毎年開催している中学校・高等学校教員との研修会「歴史学・歴史教育セミナー」では、教員志望の学部生も参加できるようにし、現場教員と対話する機会を提供している。[4.6]

(別添資料 7302-i4-12_九州大学歴史学・歴史教育セミナー)

- 授業シラバスにおいて到達目標をルーブリック等で明示している。また、ルーブリックでは、なるべくディプロマポリシーの項目に言及するようにし、各授業とカリキュラムの関係が可視化されるように努めている。さらに授業評価アンケートを実施、学業成果に関する学生の評価を確認し、授業実践にフィードバックする体制をとっている。[4.7]

九州大学文学部 教育活動の状況

(別添資料 7302-i4-13_ループリック使用例)

- 国際コース(専攻横断型英語重視プログラム)において留学を授業単位化した。指導教員と相談のうえで事前に探究課題を届け出、留学中にこれを実践し、帰国後にはレポート提出、成果報告発表をおこなうことで、成果の可視化をはかっている。[4.7]
- 小辻梅子成績優秀者奨学金を設け、各学年の成績優秀者を表彰している。[4.7]
(別添資料 7302-i4-14_小辻梅子奨学金に係る資料_01(運用内規))
(別添資料 7302-i4-15_小辻梅子奨学金に係る資料_02(創設のお知らせ))
(別添資料 7302-i4-16_小辻梅子奨学金に係る資料_03(給与実績))
- 基幹教育院附属次世代型大学教育開発センターは、FD 開催等により新たな科目・教育手法を開発・啓蒙している。[4.0]
(別添資料 7302-i4-17_次世代型大学教育開発拠点 H30 年度活動報告書)

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7302-i5-1_履修指導の実施状況)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7302-i5-2_学習相談の実施状況_文学部・全学の取組)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
(別添資料 7302-i5-3_社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 7302-i5-4_履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援_文学部・全学の取組)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 1年生の修学指導については、本学部の学生支援委員長が全学の学生相談員を、同副委員長と学務副委員長が全学の初年次サポート教員を兼任し、全学の関係委員会等と連携しつつ対応している。入学時と2年次当初に全体の修学ガイダンスを実施するほか、その際、上記の委員が学業不振学生と面談をおこなって状況改善に努めている。また初年次の4月と9月に1年生による研究室訪問を開催し、自身にマッチした専門分野選択が行なわれるように配慮している。
初年次の基幹教育科目と人文学基礎科目に所定の単位数を設定して2年次以降

の専門分野決定の必要条件とし、その GPA を専門分野受け入れ時の順位決定要件とすることで、初年次教育における学修意欲の向上をはかっている。また各学年の成績優秀者を表彰する小辻梅子成績優秀者奨学金を設けている。

各研究室に配属された後は、各研究室においてきめ細やかな学習指導を行なっている。学修相談のためのオフィスアワーを各教員が設けているほか、専門分野ごとに教員が日常的に所属学生の指導にあたっている。キャンパスが移転する2018年度までは学生修学・就職等相談室を設置して NPO 法人福岡ジェンダー研究所のスタッフによる相談・支援体制をとっていた（伊都キャンパス移転後は全学的枠組みの充実にとまない解消）。[5.1]

- 振り返りや将来の目標設定を通してキャリアに目を向けさせる初年次必修科目基幹教育セミナーを開いている。[5.3]
((再掲) 別添資料 7302-i3-10_基幹教育履修要項)
(別添資料 7302-i5-5_基幹教育セミナーシラバス)

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準
((再掲) 別添資料 7302-i4-2_文学部シラバス)
- ・ 成績評価の分布表
(別添資料 7302-i6-1_成績評価の分布表_文学部 (2019年度))
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料
(別添資料 7302-i6-2_成績評価に関する申立て (様式・掲示文))

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 基幹教育では成績評価はルーブリックに基づくものとし、シラバスで評価方法(含ルーブリック)を公開している。
((再掲) 別添資料 7302-i5-5_基幹教育セミナーシラバス)
(別添資料 7302-i6-3_基幹教育セミナールーブリック)
専攻教育では、授業シラバスにおいて、ルーブリックを活用するなどして、成績評価の方法と基準を明示するように努めている。[6.1]
((再掲) 別添資料 7302-i4-13_ルーブリック使用例)

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定
(別添資料 7302-i7-1_九州大学学部通則)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
(（再掲）別添資料 7302-i3-3_文学部規則)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 主査・副査の複数教員により、A、B、C、D 及び F の 5 段階評価で査定し、A～D は合格、F は不合格としている当該専門分野の教員に欠員があっても 1 人しかいない場合でも、他専門分野の教員を加えて 2 人以上によるチェックを義務づけている。論文の到達度は専門分野ごとに口頭試問をおこなうなどして関係教員が共有する体制をとっている。

以上の評価結果を含む卒業要件の確認は、教授会において査定資料をチェックし、学部全体として管理する体制をとっている。[7.2]

(別添資料 7302-i7-2_卒業論文に関する申合せ)

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7302-i1-1_文学部 3 ポリシー)
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率 (文部科学省公表)
(別添資料 7302-i8-1_文学部 入学者選抜確定志願状況)
- ・ 入学定員充足率
(別添資料 7302-i8-2_文学部 入学定員充足率)
- ・ 指標番号 1～3、6～7 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2018年度より国際コース(専攻横断型英語重視プログラム)を設置し、主に英語の運用能力をはかるための独自入試をおこない、国際的に活躍できる人材の育成に努めている。また、一般入試においても学力重視型の試験に偏ることのないよう、一般入試後期を、「主体的な学習・研究能力を重点的に見る本学新入試 QUBE I 型(大学適応力重視型)」へ2021年度入試から改編するとの方向性を決定した。

毎年8月にオープン・キャンパスを開催し、その際、高校教員との懇談会を開いている。また高校からの出前講義の依頼に積極的に対応しているほか、国際コース(専攻横断型英語重視プログラム)に関しては毎年九州各地の高校を教員が訪問してプロモーションに努めている。

転学部、3年次編入、研究生・聴講生、留学生の受け入れにも積極的に対応しているほか、留学生サポーターの編成には学部として組織的に取り組んできた。

[8.1]

(別添資料 7302-i8-3_留学生サポーターの概要・実施状況がわかる資料_01(制度実施要項))

(別添資料 7302-i8-4_留学生サポーターの概要・実施状況がわかる資料_02(サポーター募集要項))

(別添資料 7302-i8-5_留学生サポーターの概要・実施状況がわかる資料_03(2019後期実施状況))

九州大学文学部 教育活動の状況

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
((再掲) 別添資料 7302-i4-4_協定等に基づく留学期間別日本人留学生数_2016～2018年度)
- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 正課の授業外での自主的な英語学習のサポートを目的として、基幹教育院が設置した SALC (Self-Access Learning Center) を本学部生が利用できるようにしている。[A. 1]

(別添資料 7302-iA-1_H30 年度 SALC 利用状況報告書)

- 英語・英文学、独文学、仏文学、中国文学など外国語・外国文学に関する専門分野にはネイティブ・スピーカーの外国人教員を配置している。

専任の5名の外国人教員が日本史、日本思想、日本美術をはじめとする日本学の授業を英語によりおこなっており、国際コース(専攻横断型英語重視プログラム)ではこれを選択必修科目に指定している。

全文学部生の選択必修である「古典語および外国語科目」では、第2外国語相当のメジャーな言語に加え、マイナー言語、古典語の科目を設置し、世界の言語文化の多様性に可能な限り対応するようにしている。

専門科目についても、外国語を扱う科目を多数設定している。[A. 1]

- 教育の国際化を促進する取り組みとして、2018年度より国際コース(専攻横断型英語重視プログラム)を設置し、国際的に活躍できる人材の育成に努めている。特に外国人助教を配置して、学生サポートの充実を図っている(4.4再掲)。

このほか、交換留学生の派遣、受け入れを積極的に進めていることに加え、随時の国際学術交流行事も積極的に実施している。[A. 1]

(別添資料 7302-iA-2_人文科学研究院での国際シンポジウム等一覧)

(別添資料 7302-iA-3_国際事業報告書等)

(別添資料 7302-iA-4_国際交流イベント一覧の web page)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7302-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7302-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料番号 7302-ii1-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 成績不振学生に対しては本学部の学生支援委員会及び学務委員会の教員が面談をおこない、修学指導や生活面でのケアに努めている。

専門分野決定の要件となる初年次の指定科目内容・単位数について、状況に合わせて柔軟に見直しをおこない、単位不足による専門分野未決定が多数発生する状況を防止した。[1.1]

（別添資料 7302-ii1-3_文系ディシプリンの取り方の変遷（文学部卒業要件及び専門分野決定要件_H27～H31））

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
（別添資料 7302-iiA-1_2019年度文学部卒業アンケート結果）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文学部での学修については、卒業時のアンケートの様々な項目ほぼすべてにおいて、「大いに役立つ」「いくらか役立つ」を加えた割合が8～9割であり、肯定的な回答が大半を占めている。[A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。